

おおひらふみお  
大平文雄

質問

回答

防災用自家発電機などの  
避難所への整備を急げ

## 計画的な整備を進めます

〔総務部長〕

質問

安八町では、第二次避難所が小中学校5か所、勤労青少年ホーム、総合体育館の合計7か所あります。

日本教育研究所の2012年の調査では、非常用電源となる自家発電装置を校内に備えた学校は27・5%にとどまっています。

最高の整備率は、

神奈川県78%で、静岡県74%、東京都66%となっています。東日本大震災での被災地では自家発電装置がなく、数日間、照明も暖房もない中で避難生活を余儀なくされた被災者もいました。ちなみに岐阜県は54%です。

また、備蓄倉庫の整備については、東京都の98%を最高に、神奈川県、静岡県と続きます。岐阜県は50%です。さらに、貯水槽・浄化装置で水を確保できる学校は、東京都80%、静岡県は76%であり、岐阜県は41%です。

安八町では、現在

防災計画を策定中です。今までは予算の都合もあり、学校等の耐震を優先してきましたと思われま。しかしながら、自家発

電装置、備蓄倉庫、貯水槽・浄化装置などの設備は不足しています。その整備は喫緊の課題です。

回答

自家発電装置は、総合体育館で整備していますが、他の6か所にはありませんので、順次整備を進める必要があると思っています。

備蓄倉庫は、町内5か所に設置しています。第二次避難所では、3小学校に設置していますが、他の4か所にはありません。すべての

第二次避難所に必要と  
考えています。

貯水槽・浄化装置については、セーフティタワーと呼ばれる「緊急飲料水貯水槽兼防火水槽」が、6カ所に設置されています。一基当たり4万リットルの飲料水が備蓄されています。3リットルを大人1日分とすると、一基当たり1万3千人の1日分となり、町民の5日分の備蓄がされています。

以上のように、災害用設備の整備状況については十分とは言えず、

さらに拡充する必要があります。財政的な制約はありますが、計画的な整備を進めるため、ただ今

見直し作業を進めている「安八町地域防災計画」の中に盛り込んでいきたいと考えています。



防災時には蛇口が取り付けられ、飲料水を供給するセーフティタワー